



資料 2

第六回持続可能性有識者委員会資料
2026年1月13日
サステナビリティ推進部

【議題名】

プレイベント・サステナビリティレポート（概要版）（案）

2027年国際園芸博覧会協会



プレイベント・サステナビリティレポート 概要



- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、サステナビリティに関する計画や目標に対する進捗状況等を記載した「プレイベント・サステナビリティレポート」を2026年6月に策定

目次案	各目次記載方針
0. エグゼクティブサマリー (全体概要)	■ 本レポートの位置づけを記載し、特にサステナビリティやパートナーシップ構築の観点を整理
1. はじめに	■ 本博覧会のテーマとサブテーマとサステナビリティの関連性やこれまでのサステナビリティの取り組みについて、概観を整理
2. 目標と目的	■ 本博覧会の優先取組事項として、脱炭素、自然との共生・生物多様性保全、資源循環、人権・D&I・アクセシビリティの4項目について整理 ■ AIPHが定義する「12の目標」に対する進捗は別添にて整理
3. 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献	■ 「サステナビリティ戦略（2.2.1 国連持続可能な開発目標（SDGs）」で掲げた各SDGs目標達成の「方法」に対する現状の推進事項を整理
4. サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント（C&E）計画・教育計画	■ 「サステナビリティC&E計画」「サステナビリティ教育計画」策定以降に推進されたアクションへの「実施日程」「対象人数」「振り返り」を整理
5. ISO20121 に則した持続可能性マネジメントシステム	■ ISO20121 に則した持続可能性ESMS（イベント持続可能性マネジメントシステム）の概要、本博覧会の重要性、導入目的、運営体制、認証取得スケジュールを整理

0. 本レポートの位置づけ・構成

1. はじめに

- 本レポートの位置づけ、本博覧会のテーマとサブテーマとサステナビリティの関連性やこれまでのサステナビリティの取り組みについて、概観を整理

主な記載項目（目次）	記載概要
0. 本レポートの位置づけ・構成	<ul style="list-style-type: none">■ 本博覧会を通してレガシーづくりやSDGs達成に貢献し、ポストSDGsへの機会創出を目指す■ 開催地である横浜、市民・市民団体、企業、教育機関等とのパートナーシップを構築し、取組を推進
1.1 本博覧会の開催意義とサステナビリティ	<ul style="list-style-type: none">■ 自然環境や植物が持つ機能の活用と多様な主体の参画によって、幸福感が深まる社会を創造することを開催意義とし、サステナブルなまちづくりの姿を発信
1.2 本博覧会のテーマとサブテーマ	<ul style="list-style-type: none">■ 本博覧会理念の下、テーマ「幸せを創る明日の風景～Scenery of the Future for Happiness～」を設定■ テーマに紐づく4つのサブテーマを「サステナビリティ戦略」より引用
1.3 本博覧会の会場準備状況	<ul style="list-style-type: none">■ 開催500日前時点で、「花・緑出展」5者、「Village出展」8者の出展概要が公開
1.4 本博覧会のこれまでのサステナビリティの歩み	<ul style="list-style-type: none">■ 本博覧会テーマの達成に向けて、サステナビリティの取り組み方向性を示す「サステナビリティ戦略」、戦略を実行に移すための「サステナビリティ実施計画」を策定■ ステークホルダーとの協働に向けて、「サステナビリティ教育計画」及び「サステナビリティC&E計画」を策定■ その他、「資源循環の考え方」の策定、協会職員向けのサステナビリティ動向等に関する勉強会の実施、「持続可能性有識者委員会」の開催（2026年●月時点で、計●回）等を推進

2. 目標と目的：持続可能性優先事項①脱炭素

【目的・概要】

■ 背景としての国内外動向

- 2016年、COP21にて「パリ協定」が採択・発効。2023年のCOP28では、化石燃料の脱却を進めること等が合意。日本は2021年4月、2030年度に温室効果ガス排出量を2013年度から46%削減することを目指すことを表明

■ 主に関連する目標

- ID3-1：温室効果ガスのスコープごとの排出量

【具体的な取組】

- 会場の電力は、再生可能エネルギーを調達し、温室効果ガスを抑制することで調整
- 会場における、各種省エネ対策を推進・検討中



■ 検討事項の一部は以下の通り

- レンタル品・リース品による仮設建築物整備
- 建設機械・搬入車両等のエネルギー効率の高い低燃費の車種の積極的な導入及び性能の維持確保
- 会議室等の未使用時の消灯の徹底
- 場内施設の省エネ型設備（空調、LED照明、各種機器のLED化等）の導入

2. 目標と目的：持続可能性優先事項②自然との共生・生物多様性保全



【目的・概要】

■ 背景としての国内外動向

- 2022年12月、COP15にて「昆明・モントリオール生物多様性枠組（GBF）」が採択。ネイチャーポジティブ実現の方向性が提示され、日本は2023年3月に「生物多様性国家戦略 2023-2030」を発表

■ 主に関連する目標

- ID1-1: 生物多様性の保全
- ID7-2: 生態系に配慮した植物の維持管理手法の検討

【具体的な取組】

■ 会場におけるグリーンインフラを計画・実施

- 会場内にバイオスウェル*を導入

■ 国内外イベントやシンポジウムの開催を通じて、自然との共生・生物多様性保全に関する取組を発信・機会創出

■ 取組発信・登壇したイベント等の一部は以下の通り

- 2025年11月、ブラジルで開催されたCOP30のジャパン・パビリオンにて、「ネイチャーポジティブ社会への変革—GREEN×EXPO 2027を機に—」をテーマにセミナーを実施
- 2025年4月、第42回全国都市緑化ぎふフェアに参加し、植物や生き物が時とともに移り変わる姿で「自然と社会の調和」を表現したモニュメントを展示
- 2025年3月と11月に二度「人・自然・生命」シンポジウムを開催し、多様な分野のパネリストとともに緑や自然について考える機会を創出

UNFCCC COP30 ジャパン・パビリオン

ネイチャーポジティブ社会への変革 -GREEN×EXPO 2027を機に-

2025年11月15日(土)

10:00 - 11:15 (ブラジル時間)

22:00 - 23:15 (日本時間)

ハイブリッド (ジャパンパビリオン・ Zoom)



Zoom リンク
先着500名

本セミナーは国内外のステークホルダーが取り組むネイチャーポジティブ経済への挑戦を共有、生物多様性の維持・回復・創出や、生態系機能を活用した課題解決の取組を加速すること

*場内に降った雨水が集まってたまり、地中にゆっくりとしみ込んでいき、急な大雨による、河川への負荷等を軽減)の仕組み

参考：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会「GREEN×EXPO 2027を世界に向けて発信 COP30 (ブラジル・ベレン)にてネイチャーポジティブ社会への変革を呼びかけ」

2. 目標と目的：持続可能性優先事項③資源循環

【目的・概要】

■ 背景としての国内外動向

- 2015年にEUが「サーキュラーエコノミー行動計画」を採択し、プラスチックリサイクルや製品設計における資源循環が促進。日本は2020年に「循環経済ビジョン2020」「プラスチック資源循環戦略」を策定

■ 主に関連する目標

- ID6-2: レンタル・リース品による仮設建築物整備
- ID11-1: 食品ロスの削減の推進 ※公式参加者、一般営業出店、Village出展、テーマ営業出店

【具体的な取組】

■ GREENサーキュラー建築

- 会場内の仮設建築は、循環型、環境負荷低減、資材の有効活用を図り、建材には国産木材を積極的に活用

■ 素材使用方針

- 再生可能な植物資源（木材、紙、植物油等）を最大限に活用し、プラスチックの使用を最小化

■ 廃棄物分別

- 廃棄物全体のリサイクル率の目標値は、大阪・関西万博、東京オリパラの目標値以上となる65%に設定

■ 植物由来素材のユニフォームによる「着る循環」社会実証プロジェクトを実施

- ボランティア、運営スタッフ等のユニフォームを植物由来素材で統一。「着用→回収→堆肥化→資源循環」までを見据えた実証（PoC）を、来場者の目の前で“見える体験”として展開

1 【先進的対策】「GREEN サーキュラー建築」による循環経済の推進



GREEN×EXPO 2027における仮設建築物は、環境に配慮された「GREEN サーキュラー建築」とする。

風景に呼応する建築

- ・上乗谷の地形、流域、既存樹及び卓越樹などの自然環境条件や、展示・出展・修業のまわりに沿った配置や向きとし、周囲に溶け込む規模、高さとする。
- ・光、風、水、土の自然エネルギーを積極的に取り込むため、屋根や開口部、基礎等を工夫する。
- ・屋外庭園（植物）の一日の変化や季節の移り変わりを感じ、心地良い屋外に開かれた設えとする。

GREEN サーキュラー建築

植物とともにある建築

- ・素材、エネルギーとしての植物、空気中の酸素を生み出す植物の価値や知性を五感で感じ、幸福感（Well-being）を得られることをデザインする。
- ・日本の地域風土の中で、長年にわたり植物と密接な結び付きと関わりを持ってきた建築と植物の関係を見つめなおし、現代の技術を活用し、人と植物と建築の新しい関係を提案する。

巡りつながる建築

- ・日常のメンテナンスや将来の改修が容易であるとともに、後利用を予め見込むなど、周辺環境や機能に応じて成長していく建築とする。
- ・現場に配慮した素材を選び、廃棄物としない。特に国産木材等は、構造・仕上材やファニチャー、エネルギー等として使いまわることにより、森林資源の循環に寄与する。

ネイチャーベースデザインによる会場とGREEN サーキュラー建築

- 日本の植物資源と文化を活かすとともに、博覧会後の花と緑にあふれたグリーン社会を見据えた魅力的な会場を提供する。
- 会場内の仮設建築は、循環型（リユース、リサイクル）とし、環境負荷の低減、資材の有効活用が図られた「GREEN サーキュラー建築」とする。
- 建材には、国産木材の積極的な活用を図る。
- 先行して工場で部材を製作、現場での建設作業低減を図る。これにより、労務負荷の低減、工期短縮を図ることができる。



出典：博覧会協会「サステナビリティに関する取組み：サステナビリティ戦略」

2. 目標と目的：持続可能性優先事項④人権・D&I・アクセシビリティ

【目的・概要】

■ 背景としての国内外動向

- **人権**：1948年に「世界人権宣言」を採択後、人権保障に関連する条約が複数採択。近年は、国内外で企業×人権の取組が推進
- **D&I**：1951年に「同一価値の労働に対する男女労働者の同一報酬に関する条約」採択後、労働における男女平等が促進。その後、国内外で女性のエンパワーメントやLGBTの人々に対する法案成立が加速
- **アクセシビリティ**：1980年代以降、障害の有無にかかわらず、誰もが使いやすいデザインの考え方、ユニバーサルデザインが提唱。直近はウェブアクセシビリティも重視

■ 主に関連する目標

- ID9-3: ユニバーサルデザイン ガイドラインの策定

【具体的な取組】

■ 人権

- 本博覧会「持続可能性有識者委員会」は**人権**、環境、労働等の専門家により構成

参考：協会内資料

■ 人権・D&I

- 本博覧会「サステナビリティ戦略」では、6つの観点（**人権**、労働、腐敗防止、**ダイバーシティ&インクルージョン**、アクセシビリティ、環境）から、本園芸博のサステナビリティの「基本方針」を定義

■ アクセシビリティ

- 「2027年国際園芸博覧会アクセシビリティ・ガイドライン」を策定・それに沿った対応推進
- 第70回日本身体障害者福祉大会かながわ大会にて当事者参画の取組を発表
- 大阪・関西万博会場におけるアクセシビリティの取組を学び、取組検討



三星昭宏先生と具体的な事例を確認
(近畿大学名誉教授、
大阪・関西万博ユニバーサルデザイン検討会会長)



車いすユーザー、視覚障がいをお持ちの方と会場内目的地まで

3. 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献（1/3）



- 「サステナビリティ戦略（2.2.1 国連持続可能な開発目標（SDGs）」で掲げた各SDGs目標達成の「方法」に対する現状の推進事項を整理

主な記載項目	概要
3.1 概要	■ 「サステナビリティ戦略」にて掲げた各SDGs目標への貢献方法に対して、実施事項を整理
3.2 目標の達成方法	■ 「目標」「方法」は公表資料より引用し、「実施事項」について最新の計画に基づく取組進捗を整理

目標	方法（サステナビリティ戦略にて記載）	実施事項（本レポートにて新規記載）
目標1	開発途上国の本博覧会への参加を通じて、気候変動の適応等の知識や技術の発信等により貢献	参加目標国・国際機関数70程度に対し、12月1日時点で60を超える国・国際機関が参加表明、内9カ国と参加契約を締結
目標2	持続可能性に配慮した調達コード（以下「調達コード」という）の策定・運用や、本園芸博の展示による啓発等を通じて、サステナブルな農業を促進することにより貢献	農業分野の発展を目指し、出展作品、植物、技術のコンペティションを開催。調達コードにて、「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」を設定
目標3	新興感染症（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等）に対処することにより貢献	2025年9月に「会場衛生基本計画」を策定し、感染症発生時の対応や感染拡大防止策について明記
目標4	本園芸博の開催を通じた、花き園芸・造園業界に従事する人々の技能の育成等により貢献	2024年10月時点で、庭園などの花き園芸や造園技術の展示に223者の参画が決定
目標5	協会の雇用、人事管理及び持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	2024年1月に策定した調達コードにて、人権や労働における基準を設定し、女性のエンパワーメントや男女共同参画社会の推進

3. 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献（2/3）



目標	方法（サステナビリティ戦略にて記載）	実施事項（本レポートにて新規記載）
目標6	横浜市による下水道の整備と本園芸博での活用により貢献	2023年8月、「2027年国際園芸博覧会の開催申請について」を踏まえ複数のインフラ事業が採択され、本博覧会にて活用を推進
目標7	再生可能エネルギー電気の調達100%、持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	再生可能エネルギー電力調達を推進。調達コードにて、サプライヤーに省エネ対策等を要求し、カーボンニュートラルを推進
目標8	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	調達コードにて、持続可能な労働・経済における基準を設定し、ワーク・ライフ・バランスを推進
目標9		調達コードにて、持続可能な経済における基準を設定し、日本国内での地域生産・地域消費や地域内経済循環を推進
目標10	「基本方針4 ダイバーシティ&インクルージョン」に基づく取組により貢献	2025年3月「2027年国際園芸博覧会アクセシビリティ・ガイドライン」を策定し、本博覧会に訪れる全ての人々が安全・快適に過ごすことができるよう配慮した整備・運営を推進
目標11	廃棄物・リサイクルに関する取組により貢献	2025年3月に「2027年国際園芸博覧会資源循環の考え方」を策定し、廃棄物の3Rの徹底や植物の資源循環を推進
	本園芸博を通じたサステナブルな緑地や公共空間の取組の発信等により貢献	仮設建築物は環境に配慮された「GREENサーキュラー建築」を推進
目標12	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	調達コードにて、持続可能な消費・資源利用における基準を設定し、循環型経済（サーキュラー・エコノミー）を推進
	廃棄物・リサイクルに関する取組、持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	調達コードにて、リサイクルの促進や廃棄物処理における基準を設定し、循環型経済（サーキュラー・エコノミー）を推進

3. 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献（3/3）



目標	方法（サステナビリティ戦略にて記載）	実施事項（本レポートにて新規記載）
目標12	本園芸博を通じた持続可能な社会や自然と調和したライフスタイルの発信等により貢献	植物由来素材のユニフォームを導入し、着用後は堆肥化する実証を展開
目標13	気候変動の適応等の知識や技術の発信等により貢献	「人・自然・生命」をテーマにしたシンポジウムの開催や、COP30（ブラジル）等の国際イベントへの登壇を通じた気候変動・自然に関する情報を発信
	本園芸博を通じた気候変動対策の推進と発信等により貢献	会場における環境配慮バスの導入や「GREENサーキュラー建築」の推進
目標14	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用等により貢献	調達コードにて水産物に対する個別基準を設定し、海洋生態系の保全及び食材の安全確保を推進
目標15	持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用や、生物多様性に配慮した会場計画等により貢献	調達コードにて生物多様性に対する基準を設定し、生態系への負荷低減を推進。グリーンインフラを基軸とした会場計画によりネイチャーポジティブを推進
目標16	「基本方針3 腐敗防止」に基づく取組により貢献	コンプライアンス関連及び会計・契約事務関連規程等の情報を公開、調達コードの通報受付窓口を設置等による透明性向上に貢献
目標17	開発途上国を含むすべての国々が本園芸博に参加・出展しやすいように支援することにより貢献	様々な機会を活かした会談、レセプション、現地視察等を実施し、参加表明国とのコミュニケーションを実施
	本園芸博の様々なステークホルダーとパートナーシップを構築し、本園芸博を成功させること等により貢献	産官学・市民及び芸能人等との連携により取組を加速

4.サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画 ・教育計画（1/2）



・「サステナビリティC&E計画」「サステナビリティ教育計画」策定以降に推進されたアクションへの「実施日程」「対象人数」「振り返り」を整理

主な記載項目	概要
4.1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ C&E計画：テーマやサステナビリティに関するメッセージを発信 ■ 教育計画：全ステークホルダーに対して、サステナビリティに関する意識向上や学習を促進
4.2 対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「サステナビリティ実施計画」で設定した、本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーである、「来場者」、「出展者等」、「ボランティア」、「市民・地域社会」、「NPO・NGO」、「事業者」、「有識者等」、「政府・自治体」、「協会職員・運営スタッフ等」の9つから対象者を設定
4.3 アクションと評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各計画策定時に未公表のアクションについて、実施日程、対象人数、振り返り（良い点、改善点）を記載。下記は、記載更新を予定しているアクション ※アクション一覧の更新版を別添資料にて整理 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 灌水消費量の削減対策の実施 ➢ 工事に関するガイドライン等の策定・推進 ➢ ISO20121の認証取得・運用 ➢ プレイベント/ポストイベント・サステナビリティレポート、サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH 報告 ➢ ボランティア等の市民参加の推進 ➢ 主催者展示、公式参加者の出展、花・緑出展、Village出展を通じた情報発信 ➢ グリーンインフラの情報発信

4. サステナビリティ教育計画・C&E計画（2/2）

公式SNSの活用



- 公式ウェブサイト、Instagram、Facebook、X（旧ツイッター）、YouTubeにて情報発信を実施
- 特に、Instagramでは季節の花や横浜の公園、イベントにおけるPR活動の様子等を発信し、フォロワー数は6.7万人を超えている（2025年12月23日時点）

開催500日前記者発表会の実施



- 2025年10月29日「GREEN×EXPO 2027 開催500日前記者発表会」を実施し、最新の事業内容や、Blooming RING Action 開催500日前記念グラフィックを発表。筒井会長や公式アンバサダー芦田愛菜さんなどが、公式マスコットキャラクターのトゥンクトゥンクとともに開催に向けたメッセージを発信。

5. ISO20121 に則した持続可能性マネジメントシステム

- ISO20121 に則した持続可能性ESMS（イベント持続可能性マネジメントシステム）の概要、本博覧会の重要性、導入目的、運営体制、認証取得スケジュールを整理

主な記載項目	概要
5.1 ISO20121に則した持続可能性マネジメントシステム	<ul style="list-style-type: none">■ 本博覧会の重要性<ul style="list-style-type: none">➢ 「サステナビリティ戦略」においてESMSの構築をKPIの一つに掲げ、アクションとしてISO20121の運用及び認証取得を明記■ 導入目的<ul style="list-style-type: none">➢ 本博覧会が社会に及ぼす影響や関連するステークホルダー、社会からの期待等を整理し、継続的に改善し、サステナブルな博覧会とするための体制を構築■ 運営体制<ul style="list-style-type: none">➢ 事務総長をトップマネジメントと定義し、サステナビリティ推進部長がESMS管理責任者、サステナビリティ推進部がESMS推進事務局を務め、監査課が内部監査を実施■ 認証取得スケジュール<ul style="list-style-type: none">➢ ESMS推進事務局が主体となり2023年度からESMS運用に向けた検討を開始し、2025年にESMS構築・内部・外部審査受審、2026年認証取得

